

皆さん、こんにちは。本日のご受賞、心よりお祝い申し上げます。第8回を迎える「谷川士清書道コンクール」表彰式に、お忙しい中、ご臨席賜りました前津市長、倉田教育長、審査員の稲垣無得先生、誠に有難うございます。私たちは、会員の金費と特別会員様からのご支援により成り立つボランティア団体ありますので、行政との共催、稲垣先生の正にお名前通りの無私のご支援なしには開催は成り立ちません。改めて衷心より御礼申し上げます。

さて、皆さん、北京オリンピックは204、ロンドンは204、リオデジャネイロは206の国が参加して競いました。今年の「谷川士清オリンピック」には534の国、いや、参加者があって競って下さいました。今日はその厳しい戦いに勝ち残って、悪い方を変えれば、金メダル、銀メダル、銅メダル、上位入賞メダルを受け取って頂く晴れの場です。皆さんはウィナー、勝者です。改めて心よりお祝い申し上げます。今日は、ご家族の方や先生やお世話になった方やお仲間と思ふ存分その喜びに酔いしれて下さい。

しかし、皆さん、若い皆さんのこれからの人生では、何が起るかは全く分かりません。最近の事件では、皆さんと年齢もあまり変わらない水泳の池江璃花子選手に突然起こってしまった病魔の重さ、多くの事を私たちに承継してくれています。池江選手の「神様は乗り越えられない試練は与えない」の言葉からは感動と勇気を私は得ました。きっと彼女は立ち直ってくれると確信して応援していますが、わかりません。

士清先生もそうでした。晩年、殆ど眼が見えない病魔に襲われながらも「和調の菜」の完成に精魂を尽くし、生前に全巻の発刊はみられませんでした。その遺志は子孫の並々ならぬ尽力により110年後に果たされました。今年、初めて、会場に士清先生の肖像の掛け軸等を展示させて頂いて居ります。先生がそこでは事に心血を注いだ随所の写真も飾らせて頂きました。津市も広くなって、まだ八町にお越しでない方はご覧頂き一度見学にお越し下さい。今日の喜びと共に、士清先生の奉養をきちんと頭と心に刻んで頂き、これからの人生で、もし、苦しい場面に遭遇した時、今日の事を、士清先生の事を思い出して踏ん張って下さい。その時、作品の返却時に参加者全員にお渡しする、この、缶バッチ、私たち「谷川士清の会」の会員が手作りで精魂込めて毎年色を変えて作って居りますが、これも、これからの人生、どこかに忍び込ませてお守り代わりにでもして頂いて、士清先生を思い返し踏ん張るツールにして下さい。そして、士清先生は国学でしたが、皆さんは、書道でも勿論、良いですが、それぞれの志に従って、池江選手に憧れて水泳でもいいし、津市が生んだ吉田選手を目指してレスリングでもいいし、それぞれの思い、志を是非実現して下さい。そして、郷土津市、三重県、日本、世界に貢献する人材になって下さったら、「洞澤谷川塾」と云う私塾を開いて藤堂藩の若い藩士を教えていた士清先生も大変喜んで下さると思います。

来年の東京オリンピックの参加国は、リオデジャネイロより増えると言われています。来年の「谷川士清オリンピック」にも多くの方が参加して下さいる事をお願い申し上げます。今日は、本当におめでとうございました。

谷川士清書道コンクール審査員評（要旨）

稲垣無得（審査員）

今年は津市内の小中学生から534点の応募がありました。昨年よりはやや少なかったですが、皆さんの作品は力作ぞろいで審査にずいぶん時間を要しました

審査の観点としては

- * 元気よく伸び伸びと書かれているかということです。墨をたっぷり使って太く堂々とした作品は見る人に感動を与えてくれます。
- * 一筆一筆最後まで丁寧に書かれているかということです。自分の気持ちを一枚の紙に集中させることで力強い文字が生まれ、又、根気力を養う精神修養につながります。
- * 教科書に準じた基本的な筆遣いができているかということです。今皆さんが学校で習っている書写は正しく、美しくということが目的とされています。
- * 名前の位置と大きさも大切な要素です。課題の文字がうまくかけていても名前がしっかりかけていないと大きな減点になります。

今回入賞された皆さんの作品はこのような要素が全ての面でみたされた優れた作品であると言えます。そういった意味で皆さんは大いに自信を持ってください。皆さんの将来を期待しています。